

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (四国)	良くなる	通信会社（営業担当）	・新モデルの発売が始まり、年末に向けて販売量が増加する。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・開発中の商業集積（マンション含む）と、有名ブランドコーヒーショップが9月にオープンする予定で、来街客がかなり増えると見込まれる。新規出店には集客力があるから、景気は若干上向くだろう。
		衣料品専門店（経営者）	・8月20日以降の売上は非常に厳しかったが、気温が下がって涼しくなってきたため秋冬物に良い動きが出てくるのではないかと期待している。
		衣料品専門店（経営者）	・秋冬の端境期に当たる今は、来客数が少ない。今後、9～11月は季節商品が売れる時期なので、ある程度来客数も上昇し、客の消費も良くなると思う。
		乗用車販売店（役員）	・7月の新車投入は思っていた程の伸びが見られず、8月はなんとか乗り切った。9月以降、各社とも新車投入があるので今後に期待したい。
		乗用車販売店（営業担当）	・9月の新型車発売に期待している。購買意欲を増していきたい。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・お中元時期も終わり、少し落ち着いている。2～3か月先は秋祭りや周年祭などで忙しくなるだろう。
		タクシー運転手	・秋になれば少しはお遍路の仕事が出てくるので、水揚げは良くなるだろう。
		通信会社（営業担当）	・話題の新機種発売を契機に、市場の活性化に期待する。
		観光遊園地（職員）	・客数が伸びている。
		競艇場（職員）	・10～12月は本場開催日が前年より6日多く、特に12月は年末に大きなレースを予定しているのので、売上が増える。
		住宅販売会社（従業員）	・例年8月は客の動きが悪い。9月以降は良くなると思う。また、来場客の多かった時期のリストから契約が上がってくる。
	変わらない	商店街（事務局長）	・商店街の通行量は確実に増えてきているが、商店街専用プレミアム付商品券の購入希望者は少なく、郊外店に流れている。10月後半に近隣の大型商業施設がリニューアルオープンすることもあり、客の動きは読めない。
		一般小売店〔文具店〕（経営者）	・今のところ改善する要素が見当たらない。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・開店祝など企業向け商品は予約が入っているが、個人向けの予約は減っている。
		百貨店（営業担当）	・株価変動を受け、高額品が売れたり売れなかったりで、状況によって売上が大きく変わる。来店客数は増えてきている。
		百貨店（販売促進担当）	・賞与増加やプレミアム付商品券など好与件があるものの、高額品などの動きは鈍く、大きな押し効果にはなっていない。中国経済など不安材料もあり、楽観視できない。
		スーパー（店長）	・上昇する要素も下降する要素も見られないので、今の状態が続く。
		スーパー（企画担当）	・来店客数は増加傾向が続くとみているが、買上点数が伸びないと売上増につながらない。
		スーパー（財務担当）	・賃金上昇というプラス効果はあるものの、消費者の節約志向は根強いものがある。
コンビニ（店長）		・すぐに悪くなるとは思っていないが、良くなる要素は全く無い。	
コンビニ（店長）		・お盆休み以降、客数、客単価共に悪化しており、しばらくは望み薄だ。	
衣料品専門店（総務担当）		・プレミアム付商品券に期待していたが、売上にプラスにはならなかった。9月以降も今月同様、厳しい状態が続く。	
家電量販店（店員）	・良くなる要因も悪くなる要因も見当たらず、以前のようなボーナス商戦の盛り上がりも感じられない。そのため、閑散期でもそこまで悪化するとも思えない。		
乗用車販売店（従業員）	・最近のガソリン価格は安定しており、この状況が続くと新車販売台数も大幅増は望めないが、安定して推移すると予想される。		
乗用車販売店（従業員）	・7月発売の新型車は予想の範囲で受注があったが、その他の車種が不調のまま、全体ではあまり良くない。最近では、新型車効果が販売台数に直結しなくなっている。		
乗用車販売店（従業員）	・新型車が発売されるので、それに期待したい。		
その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	・景気が良くなる要素もなく、消費意欲は高まってこないと見ている。		

	観光型旅館（経営者）	・現状と変わらないと思う。最近の株の暴落が、ぜいたくする人が減るなど消費に影響が出るのではないかと心配している。旅行に関しては、高齢者層はそれなりの消費があると見ている。	
	都市型ホテル（経営者）	・宿泊客は、プレミアム旅行券等で若干増えるだろう。しかし、地元の宴会の予約は昨年を下回って推移しており、景気の動向は変わらない。下振れする可能性もある。	
	通信会社（支店長）	・中国の株価下落による景気減速の影響が気になるが、アメリカの景況感が良いので変わらないと判断。	
	通信会社（企画）	・加入件数は若干落ちているが、解約数は変わっていない。	
	ゴルフ場（従業員）	・2～3か月先の予約状況は、昨年とあまり変わらない。	
	美容室（経営者）	・良くなる要因が見当たらない。	
	設計事務所（所長）	・建設会社は大手も地元も受注が一杯で、取り切れない状況になっているため、新しい物件を受注することは困難になっている。	
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・中国経済の停滞に始まる株安の影響及び季節変動指数的にも低い時期であるため、心理的に顧客の動向が停滞するのではないかと。
		衣料品専門店（経営者）	・中国経済の先行きが怪しい。
		住関連専門店（経営者）	・多少、景気が上向きになりつつあったが、中国経済の影響で株価がかなり下落しており、今後は若干難しいのではないかと。
		タクシー運転手	・9月は通常の生活に戻るため、今より実車の件数、回数が少なくなるだろう。
		美容室（経営者）	・新規の客を獲得出来ていない。
	悪くなる	商店街（代表者）	・株式市場の低迷が長引くとアベノミクス効果も減退しかねない。消費経済にとって極めて重要な節目を迎えている。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	・夏が過ぎると酒類の消費が少なくなるので、これからは厳しくなる。
企業 動向 関連 (四国)	良くなる	食料品製造業（商品統括）	・今回の中国株安を含め、過去の状況から判断し、世界経済の安定化への取り組みは各国首脳陣共通認識となっている。また、求人の給与条件も高い状況にある。
	やや良くなる	電気機械器具製造業（経営者）	・再生エネルギーの問い合わせ、引き合いは引き続き多く、施工も順調である。エネルギー関係、環境関係の受注は今後も好調で推移するだろう。
		通信業（部長）	・少しではあるが、地方でも景気回復の声が取引先企業から聞かれるようになってきている。
		広告代理店（経営者）	・自動車販売関連は販売鈍化により販促費が抑制されているが、県外大手映画施設、駅ビルのオープン等の予定があり、景気は少し上向くだろう。
	変わらない	食料品製造業（経営者）	・原材料の高値の解消が見込めない。
		木材木製品製造業	・新築戸建住宅分野は、前年並みか前年を若干下回って推移している。今年6月のように新築持家着工数が上昇すると生産は忙しくなるが、ムラが発生しているだけとも受け取れる。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・現状が続くと思われるが、中国市場で上海の元の切り下げがあったため、今後の中国の動向が不安である。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・世界経済の先行き不透明感が急速に強まっており、海外の受注の動きに注意が必要である。
		電気機械器具製造業（経理）	・得意先から受注量の微増を見込んでいるが、それはM&Aに起因する前倒し発注と推測されるため、実需に大きな変化はない。
		建設会社（経理担当）	・受注量が増えないので、景気は変わらない。
	建設業（経営者）	・受注量にもよるが、現状と変わらない。	
	輸送業（営業）	・行楽シーズンの9～10月は、消費者の購買意欲の向上を期待しているが、台風など天候に大きく左右される。また、農作物の定植時期でもあるため、仮に天候不順が続いた場合は11月以降の収穫に影響を及ぼすことから、取扱物量の増加は見込めない。	
	金融業（副支店長）	・世界的な株安で経済が不安定になっている。	
	公認会計士	・経営者に話を聞くと、設備投資に消極的な意見が多い。景気がどんどん良くなるという経営者もいなかった。	
	やや悪くなる	繊維工業（経営者）	・小売店の動きは季節要因によるもので、消費者マインドは良くない。また、昨今の経済状況が厳しくなっており、今後は消費も落ち込んでいくのではないかと。
		鉄鋼業（総務部長）	・受注に直結する引き合いが減少傾向にある。

		建設業（経営者）	・公共事業の分野、部門の偏りもあって、企業毎に業績の良し悪しが分かれてきており、発注量も大きく伸びないと見込まれる。全体的には、受注量、手持ち量が減少した結果、売上が減り、景気はやや悪くなる。
		輸送業（経営者）	・株価下落により雰囲気が悪い。
	悪くなる	輸送業（支店長）	・中国不安によるもの。
雇用 関連 (四国)	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（営業）	・プレミアム付商品券の発売に伴って購買意欲は上がっていると感じるが、その経済効果についてはまだ確認出来ていない。11月の締切までは景気も多少良くなることを期待している。
		求人情報誌製作会社（従業員）	・例年同様、求人数の増加を予想している。
		職業安定所	・有効求人倍率は1.15倍となり、前月比0.05ポイント、前年同月比0.11ポイント上昇した。
		民間職業紹介機関（所長）	・8月以降も、数多くの求人票を受け付けている。企業の上半期の業績が予想よりも良かったので、求人の拡大に踏み切ったものと推測する。
	変わらない	人材派遣会社（営業担当）	・労働者派遣法改正が業界の大きな転機になると思われるが、経過措置等を勘案すると、労働市場に顕著な動きが見られるのはもう少し先になる。
		求人情報誌（営業）	・企業の採用ニーズは引き続き高止まりしているが、人材不足から採用マッチングがうまくいっていない企業が多く、状況は変わらない。労働力不足が長引くようだと景気が悪くなる可能性もある。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・総じて無理な消費を控える傾向が続いている。乗用車も売れず、野菜の値上がりやガソリン価格の高止まりなど、消費意欲を刺激する材料に乏しい。
		職業安定所（職員）	・景気の動向から、より良い仕事を探す方が見受けられる状況にある。
		職業安定所（職員）	・求人意欲の増加は、正社員の募集に直結しておらず、安定感に乏しい。
	やや悪くなる	人材派遣会社（営業担当）	・労働者派遣法改正などにより、企業が人材派遣の採用を控える可能性がある。法律が施行されるまでは、派遣業の景気の悪化につながる。
	悪くなる	-	-